

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070101908		
法人名	社会福祉法人 博悠会		
事業所名	グループホーム フランセーズ悠		
所在地	長野県長野市柳原2080-11		
自己評価作成日	平成21年10月30日	評価結果市町村受理日	平成22年2月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070101908&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、ご家族や地域のボランティア等多くの方に支えられ運営している。高齢化が進んでいる現在、誰もが認知症になる可能性がある。自分自身あるいは自分の家族が認知症になったとき、そっと支えてくれる人がいて、此处でなら安心して暮らすことができる。と思えるようなホームになるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人博悠会が運営するホームであり、姉妹施設には特養、老健、ショートステイ等を運営している。法人の理念、方針に従いながらも地域密着型施設の特性を大切に、ホーム独自の理念も皆で考え実践に移している。地域で皆と交流しながら生活していく大切さを十分理解し、ホームを理解していただく工夫もしている。また、家族との絆を大切に、利用者の生活ぶり、身体状況など詳しくお知らせすることで家族への理解や家族の意見などの表出が出来るようにしている。運営推進会議への積極的な住民参加と家族会を兼ねた運営推進会議を行なう事により、大勢の家族が集まり有意義な時間を過ごし、ホームの理解の場になっている。ユニットごとに利用者の気持ちの把握をし、介護方法にも反映し本人らしい生活支援、不安に陥らない生活支援に努めている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(らいちょう)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
ユニット名(はくちょう)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域の関係性を重視した理念を掲げており、日頃から理念に基づく具体的なケアについて話し合い、意見の統一を図っている。	法人の理念に基づき、地域密着型サービスの意義をふまえたホームの理念を職員皆で2年ほど前に作り変えた。ホーム内に掲げ運営推進会議で地域へ発信している。職員は全てが共有している。また、月間の目標を決め理念の具体化にも努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人達と挨拶を交わしたり話をしている。また、毎週地域の方が傾聴ボランティアで来訪してくださっており、地域の行事等にもボランティアの支援を得ながら、積極的に参加している。	公民館行事や地域の文化祭コーラスの部にも参加している。地域の傾聴ボランティアと共に参加し地域の人たちに地域で生活するホームの利用者の理解していただく場にもなっている。毎日、散歩に出かけ挨拶をかわし、地域と馴染みの関係の中で見守られて生活している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談を受けている。また、依頼があればグループホームとはどういったものか等を説明させていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、状況を報告し意見をもらうようにしている。	2ヶ月ごとに運営推進会議は行なわれている。家族会を兼ねた運営推進会議が行なわれ、多くの家族が参加しホームの状況報告があり、意見交換や親睦の場になっており、家族会を兼ねた会議には職員・入居者を含め50名以上の出席がある。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば市の担当者に連絡し、指導を仰ぎ、サービスの向上に取り組んでいる。	あんしん相談員が定期的に来ている。包括支援センターが運営推進会議に参加しているため、随時ホームの状況を理解していただき、協力関係が出来ている。	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより所在確認をし、その時々の状態をきめ細かく把握することにより、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。また、外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声掛けし、一緒についていくようにしている。	身体拘束の弊害については、職員は理解している。見守りを行い、本人の生活パターンを把握することにより、不穏な利用者の意思を妨げない生活支援を行なっている。夜勤での対応でも苦慮することもあるが身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での新人研修や、事業所内での勉強会を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在「成年後見制度」を利用している方がおり、必要と思われる家族には情報を提供している。また、機会あるごとに職員への説明を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際は、料金・ケアに関する考え方・起こり得るリスク・退居時の支援可能な範囲の説明等、十分に時間をかけ説明し、同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月御様子連絡票にて様子を連絡し、訪問時や家族会等にて常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見・要望等は全体で話し合い、反映させている。	運営推進委員会を兼ねた家族会などで意見を言う場がある。家族会においてなるべく職員が利用者家族の意見、意向を聞く良い場と捉え話を聞くように努めている。また、毎月の利用者の様子を細かに手紙に書いて、ホーム便りと共に郵送することにより家族からの意見、要望の出しやすい工夫も行なっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・個別面談を、それぞれ月1回実施し、意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションをとるよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	月に1回の全体会議のほか、毎月の管理者の職員との面談もあり職員からの意見を聞くようにしている。職員にも長く勤めているから当たり前、新人だから意見が言えないのではなく、新人の職員でも意見の言いやすい体制作りに努めている。	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度が整っており、年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう支援している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体での研修の他、事業所での内部研修、事業所外での研修にも、なるべく多くの職員が参加するようにしている。また、研修報告書を作成し、都度勉強会を開催している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域内外の管理者・同業者と広く交流しており、他法人で開催する研修にも職員と共に参加させていただいている。また、近隣のグループホームや小規模施設でスタッフが実習させていただき、サービスの向上に活かしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居申込後ご本人にお会いし、心身の状態を把握し、入居前には生活歴・生活状態を細かく把握し、本人の不安や苦しみを受け止めるよう努力している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の苦労や、これまでの経緯を時間をかけてゆっくりお聞きしている。ご家族の状況を理解し、今後どのように対応していくか事前に話し合いをしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた際は、本人やご家族の思いや状況を確認し、必要なサービスにつなげる等、状況の改善に向けた対応をしている。</p>		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識ではなく、一つの家族という意識の下、お互いが協働しながら穏やかに暮らせるよう支援している。特に季節の行事や一般常識は、年長者である入居者の方々から教えてもらう場面が多くある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や職員の思いを文章にて毎月きめ細かく伝えている。また、日頃からご家族の協力の下、穏やかな生活を送ることができている旨を伝えており、電話や面会時に情報交換し、本人を支えるための協力関係を築くよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、行きつけの美容院にお連れしていただいたり、墓参りに連れて行っていただいている。また、以前からの友人・知人が訪ねて来てくださっている。	家族は、利用者の馴染みの美容室に行き、本人に似合った髪形で気持ちよく過ごせる配慮もある。家に帰れるときは家族と一緒に写真を撮り、飾っている。また、一緒に墓参りに出かける家族や友達がホームを訪ねてくることもあり、馴染みの関係性が切れないように働きかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について、全ての職員が情報を共有し、心身の状態や変化に注意し、孤立してしまう方がいない様、また入居者同士の関係が円滑になるように、職員が調整役となって支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方の所へも面会に伺ったり、電話連絡をしている。ご家族が訪ねてきてくださる事もあり、継続して支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートの一部を活用し、どのように暮らしたいのか、何をしたいのか等理解するよう努め、支援につなげている。	センター方式でのアセスメントシートにより、利用者一人ひとりの思いや意向について把握し、ケアプランにも反映している。	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人及びご家族に、生活歴・家族状況・発症の経過等、できるだけ細かく聞き取るようにしている。入居後も継続して行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や精神状態の変化に注意し、できない事ではなくできることに注目し、その人全体を把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には日頃の関わりの中で思いを受け止め、反映させるようにしている。月に一回アセスメントを含め、職員全体で意見交換やカンファレンスを行っている。	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行なっている。計画の見直し時には家族の希望や意見を聞き、プランに反映している。担当職員を中心に毎月の会議で全員のモニタリングを行い、課題、ケアのあり方など現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや状態の変化は、個々のケア記録や引継ぎノートに記載し、職員は勤務開始前に必ず目を通す事を義務付けている。また、変化に応じて介護計画を見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の状況・要望に対し、できるだけ柔軟に対応できるよう努めている。また、近隣の高齢者が状況に応じて、ショートステイを利用できるようにグループホームの多機能性を強化した。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の元区長・民生児童委員に運営推進会議のメンバーに加わっていただき、意見交換をする機会を設けている。また、近隣の方々が傾聴ボランティアを立ち上げてくださり、協力を得ながら、地域行事にも参加している。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及びご家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人やご家族の希望するかかりつけ医になっている。受診や通院については、基本的には家族に対応していただいているが、その際状況や希望に応じて、職員が付き添う等柔軟に対応している。</p>	<p>在宅での主治医が継続でかかりつけ医になっている。受診、通院は家族が行っているが、精神科など専門受診のときは職員と一緒に同行する。職員が家族の状況によっては、受診に付き添うが、定期的、随時の報告は家族になされている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。また、職員は些細な変化も見逃さないようにし、変化に気づいたときは報告し受診等につなげている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために、入院時には情報を医療機関に提供し、職員も頻回に見舞い、ご家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に対する対応指針を定め説明し、協力医・ご家族の協力の下、事業所が対応しうる範囲で対応している。</p>	<p>ホームが出来ることを家族に説明をし、医師との連携のもと、納得できる範囲で対応している。対応指針は作られており、「変化に気づく」ことが、ホームでの視点と考えている。特養、老健など関連機関があるため、対応が限界のときに協力を得ている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事業所にAEDが備えてあり、複数の職員が応急手当普及員の講習を受講しているため、その職員が中心となって定期的に心肺蘇生や救急手当の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・通報・消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。また、避難訓練については、近隣の方にも参加していただいている。</p>	<p>年に2回消防署の協力の下、地域の人や運営推進会議の方たちが参加し避難訓練、消火訓練など行っている。夜間想定での訓練も行っている。運営推進会議にも避難訓練などについて話し合わせ、普段ボランティアに来ている地域の住民の協力もある。備蓄も定期的に交換されている。</p>	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は採用時に個人情報保護に関する契約を交わしており、責任ある取り扱いと管理を徹底している。また、常に誇りやプライバシーを損ねない声掛けをするよう配慮している。	個人情報については毎年新職員研修で研修がなされ、法人と契約をしている。トイレなどへの声かけも動作を見ながら本人のプライドを傷つけないように対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般と共に外出や行事において、職員だけで決めるのではなく、どこへ行きたいのか、何を食べたいのか等希望を聞き、入居者と一緒に考え決定するようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れはあるが、一人ひとりの気分や体調に配慮しながら、その人のペースで過ごしていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からの生活習慣を大切に、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでいただいている。カットやカラーも希望に合わせている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に好みやできることについてもアセスメントしている。野菜が嫌いな方も此処で採れた物は、召し上がってくださる事もあるので、夏には庭で野菜を作っている。調理から片付けまで、出来るところは一緒にやっていたいしている。	庭先の畑には夏は、ゴーヤ、きゅうり、なす、ピーマンを作り食材にしている。管理栄養士が栄養管理してメニューを作るという特徴を持っている。洗濯、食事の盛り付け、片付けなどは利用者が一人ひとりの力を活かし、いきいきと生活できる支援としている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理のため、管理栄養士の作るメニューを参考にしている。同じ材料を使い、入居者と共に別の料理を作る事もある。食事量も個々に合わせ、量や形態も変えている。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所にて口腔ケアを行っている。個々の状況に応じ見守りまたは介助により行い、磨き残しのないようにチェックしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライドを傷つける事のないよう配慮しながら、できるだけトイレでの排泄を心掛けている。紙パンツやパットも、個々に合わせて時間を限定して使用している。	本人の動きや動作を見ながらトイレ誘導したり、声かけをし、できるだけトイレでの排泄が行なえるように工夫している。パットの量が少なくなったり、パットなしで生活が出来る様になった利用者もいるという。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、排便の有無を確認している。また、毎日体操や散歩等で身体を動かし、ヨーグルト等乳製品を摂ると共に、十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供している。職員も水分補給の重要性について認識している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入りたい人は毎日入り、仲の良い人同士と一緒に入る事もある。その時々々の気分に合わせて早めにしたり、後に回すなどの工夫をしている。	入浴日でないときは足浴を行い体も温まり気持ちよく過ごせる工夫もしている。冬は皮膚の乾燥もあるため、一人ひとりにあった入浴方法を考えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情に注意しつつ日中はなるべく活動し、生活のリズムを整えるようにすると共に、夜間の安眠に繋がるよう短時間の午睡をとるようにしている。また、夜間不安で眠れないときは温かい飲み物を飲みながら傾聴し、気持ちが安定するよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、薬局からの服用薬品名カードにより、内容や副作用について把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、飲み込むところまで確認している。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや野菜・花の手入れ等進んでやったださっている。出来ることで本人が嫌でないことはお願いし、その都度感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じていただけるよう、ほぼ毎日散歩に出掛けている。歩行が困難な方も車椅子に乗車し、散歩を楽しんでいる。また、日常の買い物他、希望があればその方の行きたい店に同行し、買い物をいただいている。	毎日散歩に出掛けている。毎日出掛けることで地域の人と顔なじみになり、挨拶を交わしている。毎月ドライブに善光寺や古戦場などに出掛ける。今年はインフルエンザ流行があり、予防のため7月以降は控えている。出掛けるときは屋外で外食をしたり、楽しい時間をなるべく作っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て小額のお金を持っている方もいる。外出や買い物の際に財布を手渡し、支払っていただく事もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状は入居者と職員が一緒に書き、お送りしている。また希望に応じて日常的に手紙や電話ができるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所を取り囲むように居室があるので、朝は煮物やご飯の炊ける匂いや食器の音で起きてこれ、手伝って下さる方もいる。リビングの壁は幼稚な飾りつけはせず、行事の写真等を飾っている。	共有空間は台所に面しており、いつでも料理を作っている職員の様子がうかがえる場所である。壁には外出したときの写真を飾っており、利用者のほっとしたひと時を感じる空間である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールの作り付けの椅子や、リビングの隅にあるソファで一人で過ごしたり、仲の良い人同士で過ごせる場所を作っている。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒・椅子・写真等使い慣れた家具や品物を持ち込んでいただき、それを元に会話を広げる等、居心地の良さに配慮している。	個人の居室には、それぞれ家族が持ってきたイスや本人が昔集めていた人形を飾ってある。家族写真を飾ってあったり、以前、位牌を持ってくる人もいた。また、自宅のような雰囲気を作っている部屋もある。個人の居心地良い部屋に職員と一緒に飾りつけも行なう。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事、できない事、わかる事・わからない事を把握し、どうしたら本人の力でやっていただけなのか、わかりやすくするためにはどうすればよいかを工夫し、できるだけ混乱しないよう自立支援につなげている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域の関係性を重視した理念を掲げており、日頃から理念に基づく具体的なケアについて話し合い、意見の統一を図っている。	法人の理念に基づき、地域密着サービスの意義をふまえたホームの理念を職員皆で2年ほど前に作り変えた。ホーム内に掲げ運営推進会議で地域へ発信している。職員は全てが共有している。また、月間の目標を決め理念の具体化にも努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人達と挨拶を交わしたり話をしている。また、毎週地域の方が傾聴ボランティアで来訪してくださっており、地域の行事等にもボランティアの支援を得ながら、積極的に参加している。	公民館行事や地域の文化祭コーラスの部にも参加している。地域の傾聴ボランティアと共に参加し地域の人たちに地域で生活するホームの利用者の理解していただく場にもなっている。毎日、散歩に出かけ挨拶をかわし、地域と馴染みの関係の中で見守られて生活している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談を受けている。また、依頼があればグループホームとはどういったものか等を説明させていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、状況を報告し意見をもらうようにしている。	2ヶ月ごとに運営推進会議は行なわれている。家族会を兼ねた運営推進会議が行なわれ、多くの家族が参加しホームの状況報告があり、意見交換や親睦の場になっており、家族会を兼ねた会議には職員・入居者を含め50名以上の出席がある。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば市の担当者に連絡し、指導を仰ぎ、サービスの向上に取り組んでいる。	あんしん相談員が定期的に来ている。包括支援センターが運営推進会議に参加しているため、随時ホームの状況を理解していただき、協力関係が出来ている。	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより所在確認をし、その時々状態をきめ細かく把握することにより、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。また、外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声掛けし、一緒についていくようにしている。	身体拘束の弊害については、職員は理解している。見守りを行い、本人の生活パターンを把握することにより、不穏な利用者の意思を妨げない生活支援を行なっている。夜勤での対応でも苦慮することもあるが身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での新人研修や、事業所内での勉強会を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在「成年後見制度」を利用している方がおり、必要と思われるご家族には情報を提供している。また、機会あるごとに職員への説明を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際は、料金・ケアに関する考え方・起こり得るリスク・退居時の支援可能な範囲の説明等十分に時間をかけ説明し、同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月御様子連絡票にて様子を連絡し、訪問時や家族会等にて常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見・要望等は全体で話し合い、反映させている。	運営推進委員会を兼ねた家族会などで意見を言う場がある。家族会においてなるべく職員が利用者家族の意見、意向を聞く良い場と捉え話を聞くように努めている。また、毎月の利用者の様子を細かに手紙に書いて、ホーム便りと共に郵送することにより家族からの意見、要望の出しやすい工夫も行なっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・個別面談を、それぞれ月1回実施し、意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションをとるよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	月に1回の全体会議のほか、毎月の管理者の職員との面談もあり職員からの意見を聞くようにしている。職員にも長く勤めているから当たり前、新人だから意見が言えないのではなく、新人の職員でも意見の言いやすい体制作りに努めている。	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度が整っており、年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう支援している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体での研修の他、事業所での内部研修、事業所外での研修にも、なるべく多くの職員が参加するようにしている。また、研修報告書を作成し、都度勉強会を開催している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域内外の管理者・同業者と広く交流しており、他法人で開催する研修にも職員と共に参加させていただいている。また、近隣のグループホームや小規模施設でスタッフが実習させていただき、サービスの向上に活かしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居申込後ご本人にお会いし、心身の状態を把握し、入居前には生活歴・生活状態を細かく把握し、本人の不安や苦しみを受け止めるよう努力している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の苦労や、これまでの経緯を時間をかけてゆっくりお聞きしている。ご家族の状況を理解し、今後どのように対応していくか事前に話し合いをしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた際は、本人やご家族の思いや状況を確認し、必要なサービスにつなげる等、状況の改善に向けた対応をしている。</p>		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識ではなく、一つの家族という意識の下、お互いが協働しながら穏やかに暮らせるよう支援している。ADLが低下しており中々難しくなっているが、季節の行事や一般常識は、年長者である入居者の方々から教えてもらう場面が多くある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や職員の思いを文章にて毎月きめ細かく伝えている。また、日頃からご家族の協力の下、穏やかな生活を送ることができている旨を伝えており、電話や面会時に情報交換し、本人を支えるための協力関係を築くよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、行きつけの美容院にお連れしていただいたり、墓参りに連れて行っていただいている。また、以前からの友人・知人が訪ねて来てくださっている。	家族は、利用者の馴染みの美容室に行き、本人に似合った髪形で気持ちよく過ごせる配慮もある。家に帰れるときは家族と一緒に写真を撮り、飾っている。また、一緒に墓参りに出かける家族や友達がホームを訪ねてくることもあり、馴染みの関係性が切れないように働きかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について、全ての職員が情報を共有し、心身の状態や変化に注意し、孤立してしまう方がいない様、また入居者同士の関係が円滑になるように、職員が調整役となって支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方の所へも面会に伺ったり、電話連絡をしている。ご家族が訪ねてきてくださる事もあり、継続して支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートの一部を活用し、どのように暮らしたいのか、何をしたいのか等理解するよう努め、支援につなげている。	センター方式でのアセスメントシートにより、利用者一人ひとりの思いや意向について把握し、ケアプランにも反映している。	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人及びご家族に、生活歴・家族状況・発症の経過等、できるだけ細かく聞き取るようにしている。入居後も継続して行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や精神状態の変化に注意し、できない事ではなくできることに注目し、その人全体を把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には日頃の関わりの中で思いを受け止め、反映させるようにしている。月に一回アセスメントを含め、職員全体で意見交換やカンファレンスを行っている。	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行なっている。計画の見直し時には家族の希望や意見を聞き、プランに反映している。担当職員を中心に毎月の会議で全員のモニタリングを行い、課題、ケアのあり方など現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや状態の変化は個々のケア記録や引継ぎノートに記載し、職員は勤務開始前に必ず目を通す事を義務付けている。また、変化に応じて介護計画を見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の状況・要望に対し、できるだけ柔軟に対応できるよう努めている。また、近隣の高齢者が状況に応じて、ショートステイを利用できるようにグループホームの多機能性を強化した。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の元区長・民生児童委員に運営推進会議のメンバーに加わっていただき、意見交換をする機会を設けている。また、近隣の方々が傾聴ボランティアを立ち上げてくださり、協力を得ながら、地域行事にも参加している。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人やご家族の希望するかかりつけ医になっている。受診や通院については、基本的には家族に対応していただいているが、その際状況や希望に応じて、職員が付き添う等柔軟に対応している。</p>	<p>在宅での主治医が継続でかかりつけ医になっている。受診、通院は家族が行っているが、精神科など専門受診のときは職員と一緒に同行する。職員が家族の状況によっては、受診に付き添うが、定期的、随時の報告は家族になされている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。また、職員は些細な変化も見逃さないようにし、変化に気づいたときは報告し受診等につなげている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために、入院時には情報を医療機関に提供し、職員も頻回に見舞い、ご家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に対する対応指針を定め説明し、協力医・ご家族の協力の下、事業所が対応しうる範囲で対応している。</p>	<p>ホームが出来ることを家族に説明をし、医師との連携のもと、納得できる範囲で対応している。対応指針は作られており、「変化に気づく」ことが、ホームでの視点と考えている。特養、老健など関連機関があるため、対応が限界のときに協力を得ている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事業所にAEDが備えてあり、複数の職員が応急手当普及員の講習を受講しているため、その職員が中心となって定期的に心肺蘇生や救急手当での研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・通報・消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。また、避難訓練については、近隣の方にも参加していただいている。</p>	<p>年に2回消防署の協力の下、地域の人や運営推進会議の方たちが参加し避難訓練、消火訓練など行っている。夜間想定での訓練も行っている。運営推進会議にも避難訓練などについて話し合わせ、普段ボランティアに来ている地域の住民の協力もある。備蓄も定期的に交換されている。</p>	

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は採用時に個人情報保護に関する契約を交わしており、責任ある取り扱いと管理を徹底している。また、常に誇りやプライバシーを損ねない声掛けをするよう配慮している。	個人情報については毎年新職員研修で研修がなされ、法人と契約をしている。トイレなどへの声かけも動作を見ながら本人のプライドを傷つけないように対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて声をかけ、押し付けることなく、できるだけ自分で考え決定できる場面を作るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気分に合わせて、そのときの本人の気持ちを大切にしたい対応を心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からの生活習慣を大切に、カットやカラーも本人の希望に合わせている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に好みやできることについてもアセスメントしている。野菜が嫌いな方も此処で採れた物は召し上がってくださる事もあるので、夏には庭で野菜を作っている。調理から片付けまで、出来るところは一緒にやっていたいしている。	庭先の畑には夏は、ゴーヤ、きゅうり、なす、ピーマンを作り食材にしている。管理栄養士が栄養管理してメニューを作るという特徴を持っている。洗濯、食事の盛り付け、片付けなどは利用者が一人ひとりの力を活かし、いきいきと生活できる支援としている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理のため、管理栄養士の作るメニューを参考にしている。同じ材料を使い、入居者と共に別の料理を作る事もある。食事量も個々に合わせ、量や形態も変えている。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所にて口腔ケアを行っている。個々の状況に応じ、見守りまたは介助により行い、磨き残しのないようにチェックしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自宅でオムツを使用していた方や、尿意のない方も排泄のパターンを把握してトイレ誘導し、トイレでの排泄を促している。また、できるだけオムツや紙パンツの使用を減らすようにしている。	本人の動きや動作を見ながらトイレ誘導したり、声かけをし、できるだけトイレでの排泄が行なえるように工夫している。パットの量が少なくなったり、パットなしで生活が出来る様になった利用者もいるという。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、排便の有無を確認している。また、毎日体操等で身体を動かし、ヨーグルト等乳製品を摂ると共に、十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供している。職員も水分補給の重要性について認識している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日その時の気持ちを大切に、気分が乗らないときは順番を後に回したり、翌日にする等工夫し、無理強いすることなく入っていただいている。	入浴日でないときは足浴を行い体も温まり気持ちよく過ごせる工夫もしている。冬は皮膚の乾燥もあるため、一人ひとりにあった入浴方法を考えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情に注意しつつ日中はなるべく活動し、生活のリズムを整えるようにすると共に、夜間の安眠に繋がるよう短時間の午睡をとるようにしている。また、夜間不安で眠れないときは温かい飲み物を飲みながら傾聴し、気持ちが安定するよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、薬局からの服用薬品名カードにより、内容や副作用について把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、飲み込むところまで確認している。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干す・たたむ、食事の準備・片付け等進んでやってくださっている。出来ることで本人が嫌でないことはお願いし、その都度感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じていただけるよう、ほぼ毎日散歩に出掛けている。歩行が困難な方も車椅子に乗車し、散歩を楽しんでいる。	毎日散歩に出掛けている。毎日出掛けることで地域の人と顔なじみになり、挨拶を交わしている。毎月ドライブに善光寺や古戦場などに出掛ける。今年はインフルエンザ流行があり、予防のため7月以降は控えている。出掛けるときは屋外で外食をしたり、楽しい時間をなるべく作っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て小額のお金を持っている方もいる。外出や買い物の際に財布を手渡し、支払っていただく事もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状は入居者と職員が一緒に書き、お送りしている。また希望に応じて日常的に手紙や電話ができるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所のシンクも一般のものより低く設置しており、使いやすくなっている。リビングの壁は幼稚な飾りつけはせず、行事の写真等を飾っている。	共有空間は台所に面しており、いつでも料理を作っている職員の様子がうかがえる場所である。壁には外出したときの写真を飾っており、利用者のほっとしたひと時を感じる空間である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールの作り付けの椅子や、リビングの隅にあるソファで一人で過ごしたり、仲の良い人同士で過ごせる場所を作っている。		

外部評価結果(グループホームフランセーズ悠)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒・椅子・写真等使い慣れた家具や品物を持ち込んでいただき会話につなげるなど、居心地の良さに配慮している。	個人の居室には、それぞれ家族が持ってきたイスや本人が昔集めていた人形を飾ってある。家族写真を飾ってあったり、以前、位牌を持ってくる人もいた。また、自宅のような雰囲気を作っている部屋もある。個人の居心地良い部屋に職員と一緒に飾りつけも行なう。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事、できない事、わかる事・わからない事を把握し、どうしたら本人の力でやっていただけなのか、わかりやすくするためにはどうすればよいかを工夫し、できるだけ混乱しないよう自立支援につなげている。		